

令和8年度保健科学部学校推薦型選抜試験

# 総合問題

(時間：100分)

## 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は11ページ、解答用紙は3枚です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。また句読点も1字として1マスに記入してください。
- 5 問題冊子の余白は適宜利用してかまいません。
- 6 試験終了後、解答用紙のみを回収します。

〔I〕 **Text A** および **Text B** を読み、後の設問に答えなさい。

**Text A**

著作権処理が未完了のため  
公開できません

(<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/sodium-reduction>, modified)

**Text B**

著作権処理が未完了のため  
公開できません

(<https://edition.cnn.com/cnn-underscored/electronics/kyrin-electric-salt-spoon-ces-2025>, modified)

Notes (\*):

- \* sodium : ナトリウム、食塩の主成分である塩化ナトリウムを構成する元素
- \* cardiovascular diseases : 心筋梗塞などの循環器疾患
- \* CNN : アメリカ合衆国のニュース専門チャンネル
- \* gadget : ガジェット、小さくて気の利いた道具
- \* cutlery : カトラリー、ナイフ・フォーク・スプーンなどの食卓用道具

問1 [1] ~ [4] の中に入る最も適切なものを以下の選択肢 (a)~(f) から1つずつ選び、記号で答えなさい。

(a) in    (b) of    (c) as    (d) with    (e) between    (f) from

問2 下線部 (A)~(D) の語を本文中の意味に最も近い語句に言い換える場合、最も適切なものを①~④から1つずつ選び、番号で答えなさい。

(A) mean

- ① intention      ② unkind      ③ method      ④ average

(B) enhance

- ① reduce      ② change      ③ intensify      ④ cover

(C) prove

- ① show off      ② make      ③ decide      ④ turn out

(D) claims

- ① complains      ② asserts      ③ refuses      ④ apologizes

問3 **Text B** の第2パラグラフに示されている内容として最も適切なものを①~④から選び、番号で答えなさい。

- ① The Electric Salt Spoon is just the same size as a soup spoon.
- ② The spoon makes food taste less salty by adding a sweet flavor.
- ③ Different colors, both steady and flashing, represent different levels of saltiness.
- ④ The flashing LED of the spoon indicates the risk of cardiovascular diseases.

問4 以下の記述1～4について **Text A** と **Text B** に示されている内容と合致するものには○、合致しないものには×を記しなさい。

1. WHO recommends that adults consume at least 5 grams of salt per day, which is said to help maintain normal blood pressure.
2. A Japanese company has developed a spoon that enhances the salty taste of food, but this spoon needs electricity to work.
3. A new spoon has been developed to reduce the risks of cardiovascular diseases by directly lowering blood pressure.
4. A Japanese company plans to develop tableware that can enhance other tastes such as sweetness or sourness.

問5 **Text A** と **Text B** の両方の内容について最も正しく要約しているものを①～⑤から選び、番号で答えなさい。

- ① The WHO reports that people around the world prefer salty food, and Kirin has invented a spoon that can measure the exact amount of sodium in meals.
- ② The WHO warns that excessive sodium intake raises the risk of cardiovascular diseases, while Kirin has developed a gadget to enjoy salty flavors with less salt.
- ③ The WHO recommends eating more salt to stay healthy, and Kirin has created a gadget that encourages people to increase their sodium intake.
- ④ Both the WHO and Kirin emphasize that reducing sodium intake can immediately prevent all cardiovascular diseases.
- ⑤ Both the WHO and Kirin suggest different ways to control sodium intake in meals, one through dietary recommendations, the other via technology.

問6 次の問いに対して、あなた自身の考えを30語程度の英語で書きなさい。

Do you want to try the Electric Salt Spoon? Why or why not?

試験問題は次のページに続く。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

著作権処理が未完了のため  
公開できません

著作権処理が未完了のため  
公開できません

(山野弘樹『独学の思考法 地頭を鍛える「考える技術」』講談社現代新書, 2022. 一部改変)

問 1 下線(ア)～(ウ)のカタカナを漢字で書きなさい。

問 2 下線部(1)「一つ目の問い」とあるが、この問いに取り組む利点はどのような点にあると筆者は述べているか。文中の言葉を用いて答えなさい。

問 3 下線部(3)「積極的な意味で思考をしているとはいえません。」とあるが、これはどういうことか。50字以内で説明しなさい。

問 4 下線部(5)「その主張はあくまで形式的なものにとどまってしまいます。」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを選びなさい。

- (ア) 物事の本質を捉えるときに必要な主張であるから。
- (イ) 「不正」という言葉の意味が明確であるから。
- (ウ) 言葉の意味が曖昧で、何を達成すればいいのか分からないから。
- (エ) その主張は抽象的で難しいものだから。

問 5 空欄( A )には、いずれも「不正」の対義語が入る。前後の文脈を踏まえて、( A )に入る言葉を考えて答えなさい。

問6 下線部(6)「普遍性をめぐる三つの問いを駆使する」とあるが、次の例文(主張)について、三つの問いを立てることとする。文中で紹介された下線部(1)「一つ目の問い」、下線部(2)「二つ目の問い」、下線部(4)「三つ目の問い」の三つの問いとして、すべて妥当な内容になっているのはどれか。以下の(ア)~(エ)の中から最も適切なものを選びなさい。

例文(主張)：適度な運動は、健康の秘訣である。

|     | 下線部(1)「 <u>一つ目の問い</u> 」       | 下線部(2)「 <u>二つ目の問い</u> 」     | 下線部(4)「 <u>三つ目の問い</u> 」  |
|-----|-------------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| (ア) | 健康に対する寄与度は、適度な運動と睡眠のいずれが高いのか？ | なぜ、適度な運動が健康上の利益をもたらすと言えるのか？ | 適度な運動は、どのような活動として定義されるか？ |
| (イ) | 運動形態の差異は、健康への効果に影響しないのか？      | 適度な運動が健康に資する、その根拠は何か？       | 健康とはいかなる状態を指すのか？         |
| (ウ) | 運動の健康増進効果は、実施時間帯に依存しないのか？     | 健康に対する影響度が最大の要因とは何か？        | 健康状態はどのような指標によって評価され得るか？ |
| (エ) | 高齢者による運動の実施は、健康に有益な効果をもたらすのか？ | 健康を維持・増進する要因は何か？            | 適度な運動が健康状態の改善に寄与する要因は何か？ |

〔Ⅲ〕10 ページの資料 1 は日本における 1975、1990、2005、2020 年の女性の年齢別出生率を示したものである。11 ページの資料 2 は日本における女性の年齢（5 歳階級）別出生数、女性 1,000 人あたりの出生数、出生総数、出生性比、総人口を示したものである。11 ページの資料 3 は日本における 2005、2020 年の年齢（5 歳階級）別女性人口を示したものである。以下の設問に答えなさい。

問 1 図 1 は、資料 1 の年齢別出生率をグラフにしたものである。グラフの (A) ～ (D) はそれぞれ何年か答えなさい。

問 2 資料 1、2、3 に基づき、正しいと判断できるものには○を、誤りを含むものには×を記しなさい。

- (a) 年次が進むごとに出産年齢は高齢化している。
- (b) 年齢別で最も高い出生率を比較すると、1975 年は 2020 年の約 1.5 倍である。
- (c) 資料 2 の出生数  は出生数  より少ない。
- (d) 4 年とも女児の出生数は男児の出生数よりも多い。
- (e) 1975 年から 2020 年にかけて総人口、出生総数ともに減少傾向である。

問 3 ある年の出生総数が 820,000 人で、出生性比（女児 100 に対する男児の数）が 105 のとき、男児と女児それぞれの出生数を答えなさい。

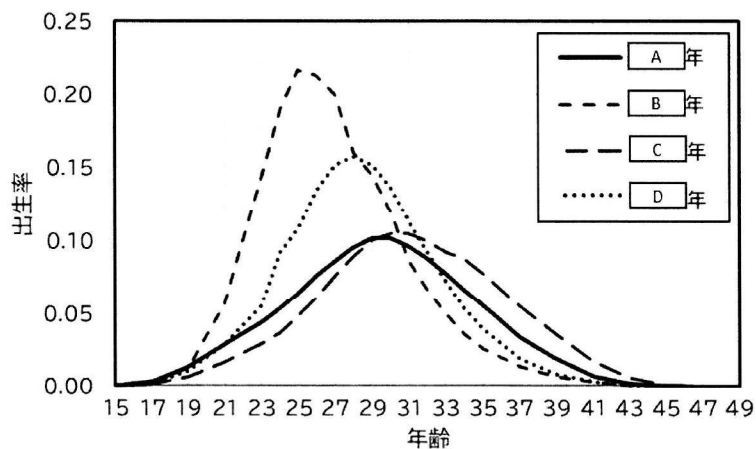
問 4 資料 3 の 2005 年の 40～44 歳女性の人口  を計算しなさい。なお、計算式も答えなさい。

問 5 2020 年以降の出生総数を推定することを目的に、1990、2005、2020 年の出生総数を利用し、年次  $x$ （1990 年を 0 年とした）から出生総数  $y$ （万人）を推定する一次式を求めると、 $y = -1.27x + 123$  となる。今後このまま推移するとして、2030 年の推定出生総数を答えなさい。

資料1 女性の年齢（各歳）別出生率

| 年齢 | 1975年   | 1990年   | 2005年   | 2020年   |
|----|---------|---------|---------|---------|
| 15 | 0.00005 | 0.00012 | 0.00036 | 0.00022 |
| 17 | 0.00182 | 0.00195 | 0.00344 | 0.00172 |
| 19 | 0.01287 | 0.01071 | 0.01354 | 0.00661 |
| 21 | 0.05613 | 0.02891 | 0.02865 | 0.01639 |
| 23 | 0.14315 | 0.05451 | 0.04361 | 0.02884 |
| 24 | 0.19016 | 0.09134 | 0.05330 | 0.03703 |
| 25 | 0.21626 | 0.10862 | 0.06415 | 0.04845 |
| 26 | 0.21282 | 0.13451 | 0.07597 | 0.06066 |
| 27 | 0.19954 | 0.15120 | 0.08603 | 0.07588 |
| 28 | 0.15978 | 0.15697 | 0.09516 | 0.08914 |
| 29 | 0.14442 | 0.15183 | 0.10152 | 0.10024 |
| 30 | 0.11898 | 0.13572 | 0.10172 | 0.10445 |
| 31 | 0.08648 | 0.11277 | 0.09597 | 0.10466 |
| 32 | 0.06618 | 0.09157 | 0.08717 | 0.09935 |
| 33 | 0.04956 | 0.07255 | 0.07748 | 0.09224 |
| 34 | 0.03557 | 0.05369 | 0.06620 | 0.08704 |
| 35 | 0.02553 | 0.03924 | 0.05562 | 0.07735 |
| 37 | 0.01377 | 0.01911 | 0.03379 | 0.05489 |
| 39 | 0.00668 | 0.00845 | 0.01885 | 0.03514 |
| 41 | 0.00278 | 0.00303 | 0.00678 | 0.01715 |
| 43 | 0.00101 | 0.00086 | 0.00192 | 0.00573 |
| 45 | 0.00024 | 0.00016 | 0.00044 | 0.00108 |
| 47 | 0.00004 | 0.00002 | 0.00007 | 0.00015 |
| 49 | 0.00002 | 0.00001 | 0.00007 | 0.00010 |

図1



注：率算出の分母人口は、日本人人口。

(国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2022年版」を基に作成)

資料2 女性の年齢（5歳階級）別出生数、女性1,000人あたりの出生数、出生総数、出生性比、総人口

| 年齢                 | 出生数（人）    |           |           |         | 女性1,000人あたりの出生数 |       |       |       |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------------|-------|-------|-------|
|                    | 1975年     | 1990年     | 2005年     | 2020年   | 1975年           | 1990年 | 2005年 | 2020年 |
| 15～19歳             | 15,999    | 17,496    | 16,573    | 6,948   | 4.1             | 3.6   | 5.2   | 2.5   |
| 20～24歳             | 479,041   | 191,859   | 128,135   | 66,751  | 107.0           | 44.8  | 36.6  | 23.0  |
| 25～29歳             | 1,014,624 | 550,994   | 339,328   | 217,804 | 190.0           | 139.8 | 85.3  | 74.7  |
| 30～34歳             | 320,060   | 356,026   | ア         | イ       | 69.6            | 93.2  | 85.6  | 97.3  |
| 35～39歳             | 62,663    | 92,377    | 153,440   | 196,321 | 15.0            | 20.8  | 36.1  | 55.3  |
| 40～44歳             | 8,727     | 12,587    | 19,750    | 47,899  | 2.1             | 2.4   | 5.0   | 11.8  |
| 45～49歳             | 319       | 224       | 598       | 1,676   | 0.1             | 0.0   | 0.2   | 0.4   |
| 出生総数（人）            | 1,901,440 | 1,221,585 | 1,062,530 | 840,835 |                 |       |       |       |
| 出生性比 <sup>1)</sup> | 106.2     | 105.4     | 105.3     | 105.0   |                 |       |       |       |
| 総人口（千人）            | 111,940   | 123,611   | 127,768   | 126,146 |                 |       |       |       |

注：出生総数は、年齢不詳を含む。年齢別出生数は母の年齢が15歳未満のものは15～19歳に、50歳以上のものは45～49歳に加えた。女性1,000人あたりの出生数算出の分母人口は、該当年齢の女性人口。

1) 女兒100に対する男児の数

（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2022年版」を基に作成）

資料3 年齢（5歳階級）別女性人口

| 年齢     | 2005年     | 2020年     |
|--------|-----------|-----------|
| 15～19歳 | 3,168,859 | 2,735,918 |
| 20～24歳 | 3,504,082 | 2,899,938 |
| 25～29歳 | 3,979,000 | 2,913,850 |
| 30～34歳 | 4,726,334 | 3,118,957 |
| 35～39歳 | 4,245,875 | 3,552,291 |
| 40～44歳 | ウ         | 4,056,723 |
| 45～49歳 | 3,812,550 | 4,763,856 |

（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2007、2022年版」を基に作成）